

## 2. 全数把握対象感染症患者届出状況

### (1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾患名	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)
二類	結核	136	123	131	95	80
三類	細菌性赤痢	1				
	腸管出血性大腸菌感染症	14	17	19	19	11
	パラチフス					
四類	A型肝炎		1		1	
	重症熱性血小板減少症候群	9		3	1	4
	つつが虫病		3		2	2
	デング熱	1				
	日本紅斑熱	12	7	10	13	7
	マラリア	1				
	ライム病					1
	レジオネラ症	13	21	23	17	14
五類	アメーバ赤痢	7	1	2	2	1
	ウイルス性肝炎(E型、A型を除く)	2	1		1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	11	7	13	11	1
	急性弛緩性麻痺(急性白髄炎を除く) <sup>1)</sup>					
	急性脳炎	2		1		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	3		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	2		2	5
	後天性免疫不全症候群	4	3	4	4	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	5	3	2	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1			
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	7	6	5	2
	水痘(入院例)	5	3	4	1	
	梅毒	30	23	21	67	78
	播種性クリプトコックス症	3	2	4	2	
	破傷風		1	4	1	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			
	百日咳 <sup>2)</sup>	80	3	43	67	78
	風しん	2				
麻疹	1					
※	新型コロナウイルス感染症 <sup>3)</sup>		199	3,092	130,116	34,779

※新型インフルエンザ等感染症

<sup>1)</sup>平成30年5月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

<sup>2)</sup>平成30年1月1日より定点把握対象疾患(五類感染症)から全数把握対象疾患感染症へ変更された。

<sup>3)</sup>令和2年2月1日より指定感染症に追加指定、令和3年2月13日より新型インフルエンザ等感染症に変更、令和5年5月8日より定点把握対象疾患感染症(五類感染症)へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

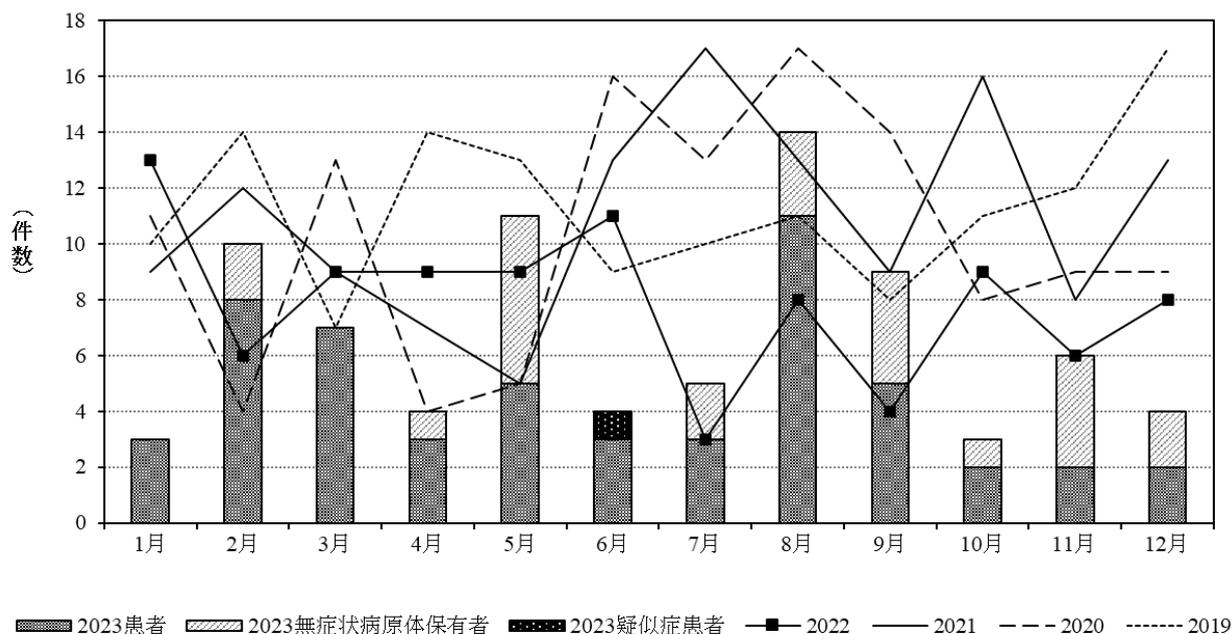
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

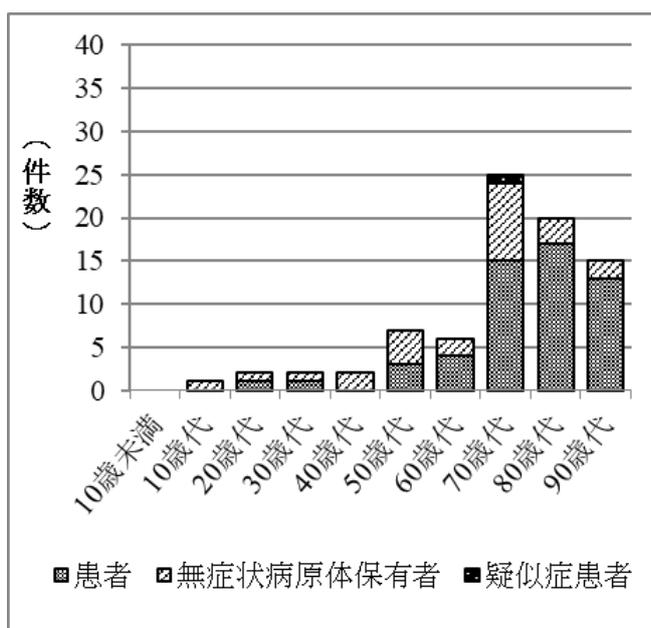
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	0	0	0
10歳代	0	1	1
20歳代	1	1	2
30歳代	1	1	2
40歳代	0	2	2
50歳代	2	5	7
60歳代	2	4	6
70歳代	14	11	25
80歳代	11	9	20
90歳以上	4	11	15
計	35	45	80

【年齢・症状別届出数】



年間届出数は 80 件で、前年（95 件）より減少した。

診断の種類では、「患者」が 54 件（内訳：肺結核 41 件、その他の結核 9 件、肺結核及びその他の結核 4 件）と最も多く、「無症状病原体保有者」は 25 件、「疑似症患者」は 1 件であった。

年齢別にみると、70 歳代（25 件）、80 歳代（20 件）、90 歳以上（15 件）と、70 歳以上の届出が合計 60 件と全体の 75%を占めた。性別では、男性 35 件、女性 45 件と女性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、70 歳以上では「患者」が 75%と大部分を占めたのに対し、70 歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が 55%、「患者」の割合が 45%であった。

職業別では、医療・介護などの施設関係者や厨房職員等、集団感染に繋がる環境で従事する者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し、感染予防啓発や施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

### 《三類感染症》

#### ② 腸管出血性大腸菌感染症

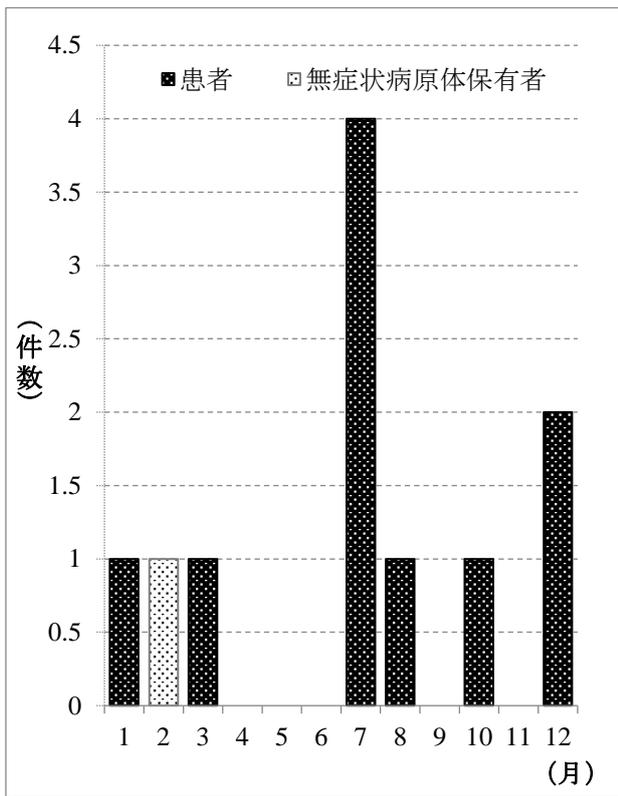
診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
1 月	女	30 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
2 月	女	60 歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT2)	国内
3 月	女	60 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O26 (VT1)	国内
7 月	男	10 歳未満	腹痛、血便	O157 (VT2)	不明
7 月	女	20 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT2)	国内
7 月	男	60 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT2)	国内
7 月	男	70 歳代	水様性下痢、血便、発熱	O26 (VT1)	国内
8 月	女	70 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1,2)	国内
10 月	女	40 歳代	腹痛、血便	O157 (VT2)	国内
12 月	男	10 歳代	腹痛、水様性下痢、発熱	O157 (VT2)	国内
12 月	女	10 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O157 (VT2) O103 (VT1)	不明

年間届出数は 11 件で、前年（19 件）より減少した。一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数推移では、7～8 月に 5 件と約 45%を占めた。

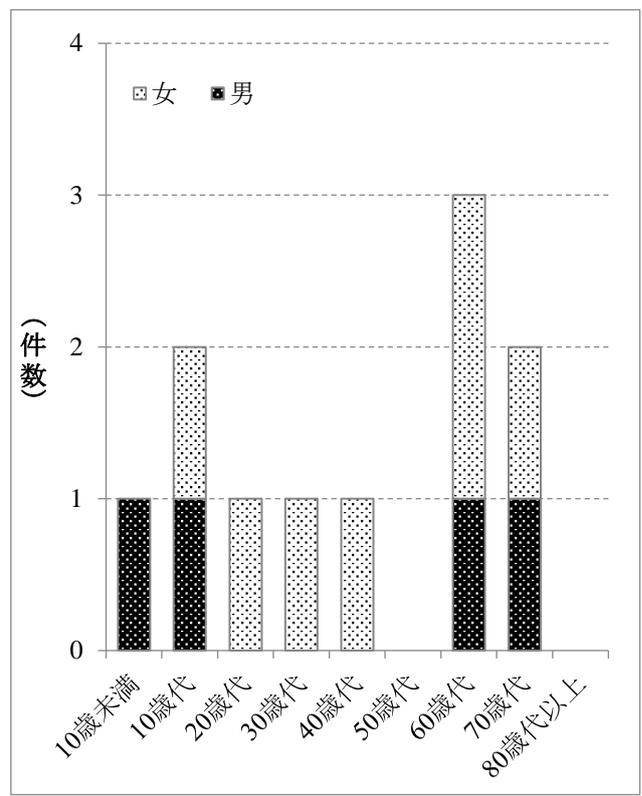
年齢別では、10 歳未満～70 歳代まで幅広い年齢層で届出があり、性別では、男性 4 件、女性 7 件であった。診断の種類では「患者」が 10 件、「無症状病原体保有者」が 1 件と「患者」が多く、症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱など複数の症状を訴えていた。血清型別は、本疾患の多くを占める O157 が 8 件、O26 が 2 件、O103 と O157 を共に検出した届出が 1 件であった。

推定感染経路は、肉の喫食等の経口感染 6 件、不明 5 件であった。推定感染地域は国内 9 件、不明 2 件であった。

【腸管出血性大腸菌感染症の月別・症状別届出数】



【腸管出血性大腸菌感染症の年齢・性別届出数】



《四類感染症》

③ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	70歳代	発熱、筋肉痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
6月	女	70歳代	発熱、神経症状、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	県内
6月	女	60歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少	マダニ等からの感染	国内
10月	女	70歳代	発熱、神経症状、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	県内

年間届出数は4件で、前年（1件）より増加した。届出月は6月と10月で、マダニの活動時期にあたる春から秋であった。年齢及び性別は70歳代女性が2件、70歳代男性と60歳代女性が1件ずつであった。感染経路は、草抜き、農作業等の野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、病原体を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年発生しており、重症化例も見られる。近年のキャンプブームや登山などの人気の高まりを受け、草むらや山林などマダニの生息地に人が近づく機会が増えており、野外活動時の、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

## ④ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	50歳代	頭痛、発熱、発疹	不明	県内
12月	女	60歳代	発熱、刺し口	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内

年間届出数は2件であった。届出月は6月と12月で、年齢及び性別は50歳代と60歳代の女性が1件ずつであった。推定感染地域は、全て県内であった。推定感染経路は、動物・蚊・昆虫等からの感染1件、不明1件であった。

## ⑤ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	60歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
6月	男	70歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
7月	男	80歳代	発熱、発疹、肝機能異常	不明	国内
8月	男	60歳代	発熱、刺し口、全身倦怠感	マダニ等からの感染	県内
8月	男	80歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
10月	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内
10月	男	40歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	県内

年間届出数は7件で、前年(13件)より減少した。届出月は5~10月と、マダニの活動時期と一致していた。年齢別では40歳代1件、60歳代2件、70歳代2件、80歳代2件であった。性別では男性6件、女性1件であった。推定感染地域は全て国内で、県内は5件であった。推定感染経路は農作業等の野外活動時にマダニ等からの刺咬による感染6件、不明1件であった。

## ⑥ ライム病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	女	60歳代	遊走性紅斑、発熱、激しい頭痛	動物・蚊・昆虫等からの感染	県内

年間届出数は1件であり、2016年以降7年ぶりの発生となった。届出月は10月で、年齢及び性別は60歳代の女性であった。推定感染経路は、動物・蚊・昆虫等からの感染であり、推定感染地域は県内であった。

## ⑦ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	70歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
6月	女	50歳代	発熱、咳嗽、下痢、肺炎	不明	国内
6月	男	70歳代	発熱、肺炎	土壌	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	女	90歳代	発熱、肺炎	不明	不明
7月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
7月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
7月	男	50歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
7月	男	80歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
8月	男	60歳代	咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
10月	女	90歳代	発熱、呼吸困難、肺炎、歩行困難	不明	国内
11月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
11月	男	60歳代	発熱、肺炎	不明	国内
11月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、腹痛、意識障害、肺炎	不明	国内
12月	女	40歳代	咳嗽、肺炎	不明	国内

年間届出数は14件であった。2015年以前は年間1～5件で推移していたが、2016年以降は毎年10件を超えている。届出月は、6～8月、10～12月で、年齢は40～90歳代であり、性別は男性10件、女性4件であった。病型は全て「肺炎型」であった。推定感染経路は水系感染が3件、土壌が1件、不明が10件、推定感染地域は国内13件、不明1件であった。

#### 《五類感染症》

##### ⑧ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	60歳代	下痢	不明	不明

年間届出数は1件であり、2020年以降は1～2件で推移している。年齢及び性別は60歳代の男性であった。病型は「腸管アメーバ症」で、推定感染経路及び推定感染地域は不明であった。

##### ⑨ ウイルス性肝炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	女	10歳未満	肝機能異常	接触感染	国内
8月	男	10歳未満	発熱、肝機能異常	接触感染	国内

年間届出数は2件で、過去10年間の届出数は0～2件で推移している。年齢は、いずれも10歳未満で、性別は男性1件、女性1件であった。病原体は「コクサッキーウイルスA群2型」、「アデノウイルス」が検出されており、いずれも推定感染経路は接触感染で、推定感染地域は国内であった。

##### ⑩ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
8月	男	80歳代	尿路感染症、菌血症	医療器具関連感染（尿路カテーテル）	国内

年間届出数は1件で、過去5年間で最も少なかった。年齢及び性別は、80歳代の男性であった。推定感染経路は医療器具（尿路カテーテル）を介しての感染で、推定感染地域は国内であった。

⑪ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	80歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、小脳症状、記憶障害、精神・知能障害	不明	不明
10月	女	80歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、小脳症状、記憶障害、筋強剛	不明	不明

年間届出数は2件であった。年齢は、いずれも80歳代で、性別は、男性1件、女性1件であった。病型は「古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（以下CJD）」と「家族性CJD」で、いずれも推定感染経路及び推定地域は不明であった。

⑫ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	50歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	不明	国内
11月	女	60歳代	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC	飛沫・飛沫核感染	国内
11月	男	70歳代	ショック、肝不全、腎不全、軟部組織炎	創傷感染	国内
12月	男	80歳代	ショック、肝不全、腎不全、DIC	不明	国内
12月	男	80歳代	ショック、DIC、軟部組織炎	不明	国内

年間届出数は5件で、過去10年間で最も多かった。年齢は80歳代2件、50歳代、60歳代、70歳代が1件ずつで、性別は男性4件、女性1件であった。推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染1件、創傷感染1件、不明3件、推定感染地域はいずれも国内であった。血清群は、A群4件、G群1件であった。

⑬ 後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	50歳代	小脳失調、構音障害、歩行困難	性的接触	国内
5月	男	20歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内

年間届出数は2件であり、過去10年間で最も少なかった。年齢は20歳代と50歳代で、性別はいずれも男性であった。病型は「AIDS」と「無症候性キャリア」で、いずれも推定感染経路は性的接触で、推定感染地域は国内であった。

⑭ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9月	女	70歳代	菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内

年間届出数は1件であり、過去5年間で最も少なかった。年齢及び性別は、70歳代の女性であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であり、経気道感染が考えられた。推定感染地域は国内と推定された。

⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8 月	男	10 歳未満	発熱、咳、嘔吐、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
12 月	女	10 歳未満	発熱、全身倦怠感、菌血症	不明	国内

年間届出数は2件であり、過去10年間で最も少なかった。年齢はいずれも10歳未満で、性別は男性1件、女性1件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染1件、不明1件で、推定感染地域はいずれも国内であった。

⑯ 梅毒

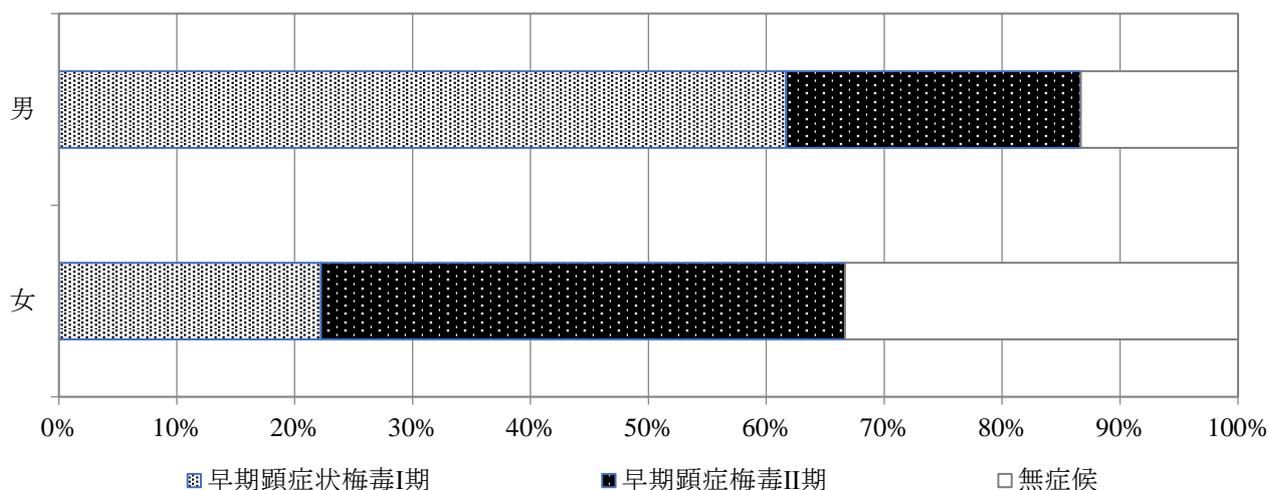
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
1 月	女	30 歳代	硬性下疳（口腔咽頭）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
1 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
1 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
1 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
1 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
1 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
1 月	男	20 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
2 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
2 月	男	20 歳代	硬性下疳（肛門）	同性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
2 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
2 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
3 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
3 月	男	60 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内
3 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
4 月	男	70 歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
4 月	女	10 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
4 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	30歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4月	男	50歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4月	男	40歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5月	女	30歳代	硬性下疳（性器・肛門）	異性間性的接触	国内
5月	男	40歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5月	男	30歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
5月	男	30歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内
5月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	不明
5月	男	30歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
5月	男	50歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
6月	女	40歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
6月	男	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
6月	女	10歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
6月	女	40歳代	梅毒性バラ疹	不明	不明
6月	男	50歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
6月	男	40歳代	硬性下疳（性器・下腹部）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
6月	男	40歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
6月	男	20歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6月	男	40歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6月	男	30歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7月	男	30歳代	硬性下疳（性器）	性的接触	国内
7月	男	60歳代	無症状病原体保有者	性的接触	国内
7月	男	30歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	不明	不明
7月	女	30歳代	梅毒性バラ疹、耳介後リンパ節腫脹（無痛性）	不明	国内
7月	男	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7月	女	40歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
7月	男	40歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内

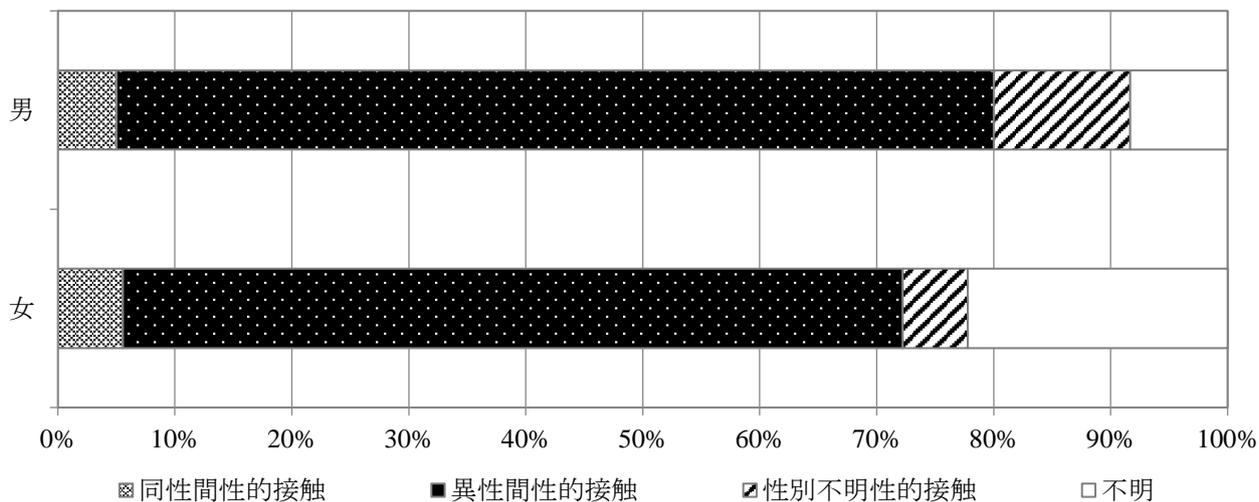
診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	女	20歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内
7月	男	60歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	不明
7月	男	40歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
7月	男	30歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
8月	女	90歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
8月	男	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
8月	男	50歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
8月	男	20歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
8月	男	40歳代	眼症状	性的接触	国内
8月	男	20歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
9月	女	10歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
9月	女	20歳代	梅毒性バラ疹、眼症状	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	硬性下疳（性器）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
9月	男	20歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
10月	男	50歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10月	男	30歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
10月	女	20歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
10月	男	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10月	男	40歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10月	男	30歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10月	女	90歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
11月	男	50歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内
11月	女	20歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
11月	男	60歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
12月	男	50歳代	硬性下疳（性器）、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
12月	女	20歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内



【梅毒の病型・性別届出数】



【梅毒の感染経路・性別届出数】



⑰ 破傷風

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	60歳代	開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣	錆びた釘の刺入による感染	国内
12月	男	30歳代	嚥下障害、発語障害、痙攣、反弓緊張	その他(サバイバル訓練)	国内

年間届出数は2件であった。過去10年間の届出数は0~4件で推移している。年齢は30歳代と60歳代で、性別はいずれも男性であった。推定感染経路はさびた釘の刺入による感染とサバイバル訓練での傷等からの感染であり、推定感染地域はいずれも国内であった。

## ⑱ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
2月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
2月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
3月	男	80歳代	持続する咳	家族内感染	国内
3月	女	70歳代	持続する咳	家族内感染	国内
3月	女	80歳代	持続する発熱	家族内感染	国内
3月	女	80歳代	持続する咳、咽頭不快感	家族内感染	国内
3月	女	80歳代	夜間の咳き込み、発熱	家族内感染	国内
4月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4月	男	10歳未満	呼吸苦、発熱、鼻汁、目の腫れ	家族内感染	国内
5月	女	40歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、咽頭痛	不明	国内
5月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5月	男	40歳代	白血球数増多	不明	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
5月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
5月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内

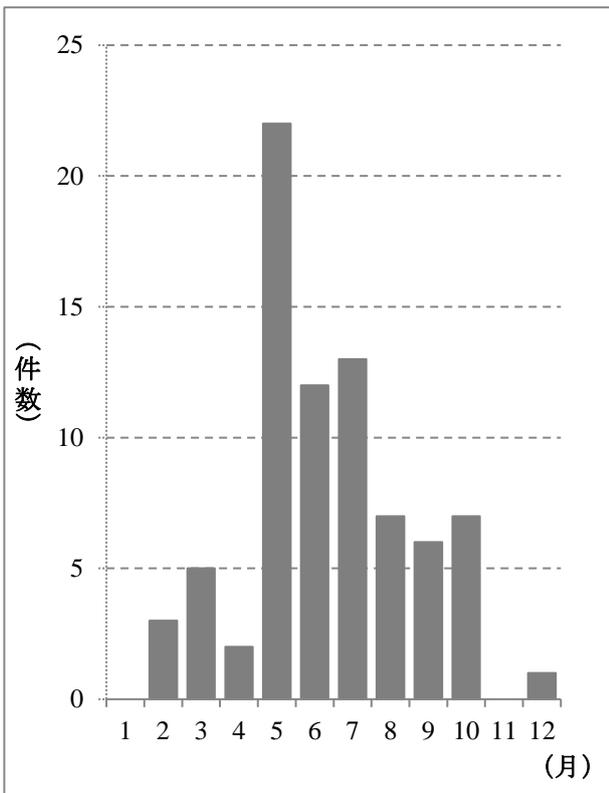
診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6月	女	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	女	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
7月	女	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
8月	女	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
8月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
8月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
8月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	家族内感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	男	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、スタッカート、ウープ	家族内感染	国内
9月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
9月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、スタックカート、ウーブ	家族内感染	国内
10月	女	10歳未満	持続する咳、気管支炎	不明	国内
10月	男	20歳代	白血球数増多、肺炎、発熱、血痰、頭痛、倦怠感	家族内感染	国内
12月	女	40歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明

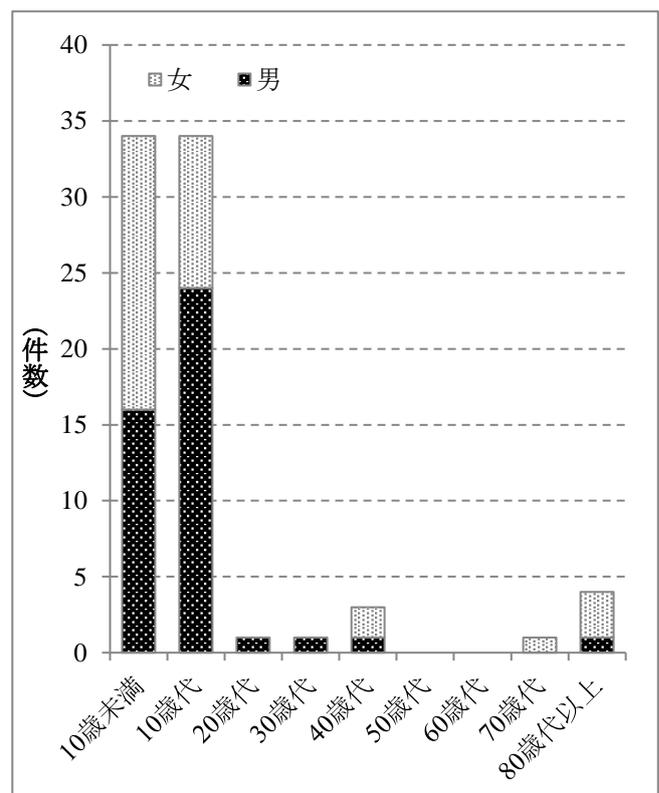
年間届出数は78件と、前年（67件）より増加した。年齢別は10歳未満34件、10歳代34件、20歳代1件、30歳代1件、40歳代3件、70歳代1件、80歳代4件で、性別は男性44件、女性34件であった。推定感染経路は家族内感染が65件、学校関連の感染が3件、不明が10件であった。推定感染地域は国内が77件、不明が1件であった。

百日咳含有ワクチン接種歴は、4回47件、3回2件、不明29件であった。診断方法は、78件全て抗原検査であった。

【百日咳の月別届出数】



【百日咳の年齢・性別届出数】



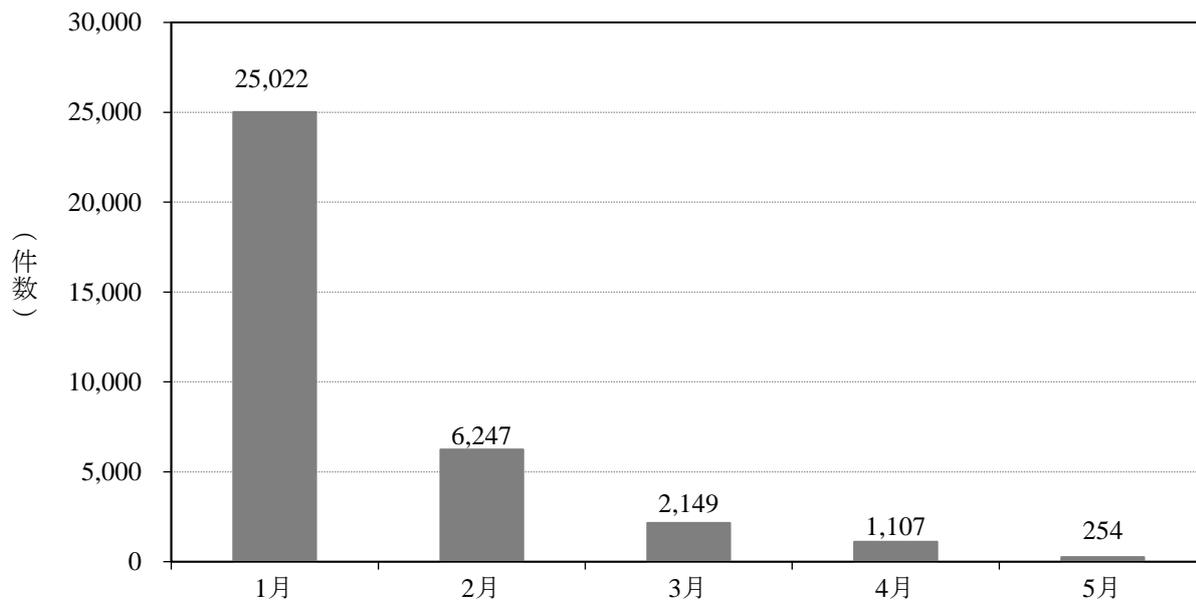
《新型コロナウイルス感染症》

⑨ 新型コロナウイルス感染症（2023年1月1日～5月7日）

2023年5月8日から定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ感染症法上の取扱いが変更された。

2023年1月1日から5月7日までの届出数は34,779件であり、この期間中の月別届出数は1月25,022件、2月6,247件、3月2,149件、4月1,107件、5月254件であった。年齢別では、40歳代が5,305件と全体の約15%を占めた。続いて30歳代4,730件、10歳代4,441件、10歳未満4,363件の順に多かった。

【新型コロナウイルス感染症の月別届出数】



【年齢別届出数】

	人数	比率 (%)
10歳未満	4,363	13
10歳代	4,441	13
20歳代	4,262	12
30歳代	4,730	14
40歳代	5,305	15
50歳代	4,034	12
60歳代	2,930	8
70歳代	2,221	6
80歳代以上	2,493	7
計	34,779	100

